

第6期北海道農業・農村振興推進計画の中間点検

【地域農業・農村の「めざす姿」】

《各振興局の取組状況》

令和6年2月

北海道農政部

目次

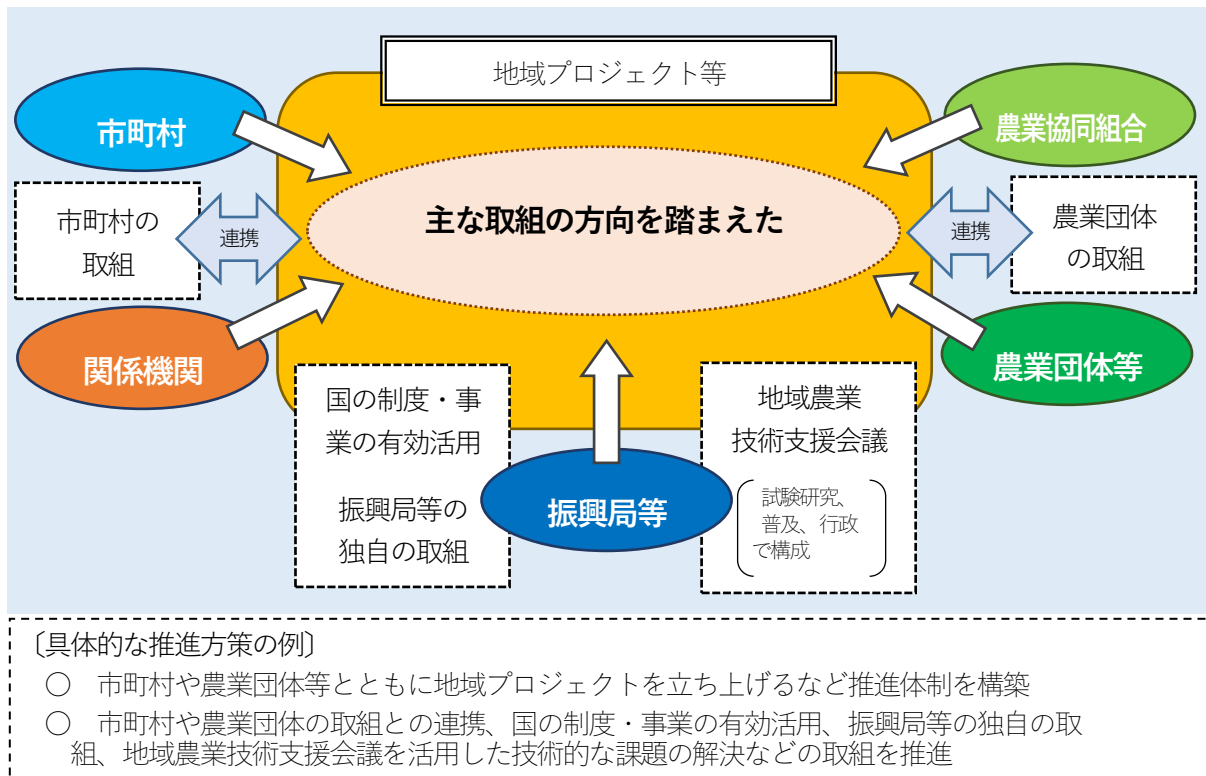
| | |
|--------------------------|----|
| I 地域農業・農村の「めざす姿」と主な取組の方向 | 1 |
| 1 「めざす姿」の位置付け | 1 |
| 2 地域農業・農村の「めざす姿」 | 1 |
| 空地地域 | 2 |
| 石狩地域 | 4 |
| 後志地域 | 6 |
| 胆振地域 | 8 |
| 日高地域 | 10 |
| 渡島・檜山地域 | 12 |
| 上川地域 | 16 |
| 留萌地域 | 18 |
| 宗谷地域 | 20 |
| オホーツク地域 | 22 |
| 十勝地域 | 24 |
| 釧路・根室地域 | 26 |

I 地域農業・農村の「めざす姿」と主な取組の方向

1 「めざす姿」の位置付け

この「めざす姿」は、振興局等が、農業者や市町村、農業団体等の地域関係者とともに、おおむね10年後を見据えた地域農業・農村の目指すべき将来像と、その実現に向けた主な取組の方向を検討し、明らかにしたものです。

この検討を通じ、地域関係者の間で、改めて取組の方向についての認識の共有を図ったところであり、「めざす姿」の実現に向けては、今後更に地域ぐるみで具体的な取組を検討し、推進することとしています。



2 地域農業・農村の「めざす姿」

振興局等を基本とした12地域の農業・農村の「めざす姿」とその実現に向けた主な取組。

| | |
|---|--|
| 【空知地域】 北海道の米生産をリードする魅力ある水田農業 | 【上川地域】 将来の担い手に選ばれる 輝く上川の農業・農村 |
| 【石狩地域】 地域を大切に、地域から期待される都市近郊農業 | 【留萌地域】 夢と希望に満ちた「バラエティ豊かな」留萌農業 |
| 【後志地域】 多様な人材の活躍によるブランド力ある後志農業 | 【宗谷地域】 “最北”の強みを活かし、未来を担う人材が活躍する宗谷農業 |
| 【胆振地域】 「食の宝庫」を活かして稼ぐ いぶり農業 | 【オホーツク地域】 オホーツクの広大な大地で“クール”に農業 【オホーツククール】 |
| 【日高地域】 未来へつながる、魅力あふれる日高農業 | 【十勝地域】 日本の食料生産を支え、地域を豊かにする農業王国十勝 |
| 【渡島・檜山地域】 小さくとも「キラリと輝く!!」道南農業 | 【釧路・根室地域】 我が国の酪農を牽引し続け、次世代が夢をもつことのできる農業・農村 |

1 地域農業・農村の「めざす姿」

北海道の米生産をリードする魅力ある空知水田農業

- 空知の強みである生産性の高い水田をフル活用し、スマート農業技術などの導入による省力化と空知産農産物のブランド力の向上により、魅力ある空知水田農業が展開され、北海道の米生産をリードしています。
- 経営感覚に優れた担い手と多様な人材が活躍し、農業経営体の持続的な発展と地域の成長を力強く支え、農村に活力を与えています。

2 「めざす姿」の実現に向けた主な取組の方向

(1) 水稲を基本とした複合経営の確立と農家所得向上

- 高品質な空知産米の安定生産と水稲作付面積の維持・確保に努めるとともに、空知産米の更なるブランド力向上と消費拡大を図ります。
- 低コスト・省力化技術の導入とともに、土地利用型作物を主体とした適正な輪作体系の確立や野菜・花きなどの園芸作物の安定生産を推進します。

(2) 担い手の育成と多様な人材の確保

- 優れた経営感覚を備えた農業経営者の育成と就農間もない農業者の早期経営安定化を図るため、経営力や技術力を向上させる実践的な研修や地域でサポートする取組を推進します。
- 雇用人材の確保に向け、他産業や他地域と連携し、農福連携や援農マッチングなど多様な人材の受入に向けた取組や、就業条件の整備など、雇用の改善につながる対策を進めます。

(3) 空知農業を支える基盤整備とスマート農業の推進

- ほ場の大区画化・汎用化、排水対策、地下かんがい施設の整備など、生産力強化、防災・減災につながる基盤整備を計画的に推進します。
- 関係機関との連携・協働体制を構築し、スマート農業に関する情報の共有や人材の育成などを進め、水田の水管理システムやロボット農機など、地域や個々の営農に応じたスマート農業技術の着実な導入を促進します。

事例： 岩見沢市と新十津川町では、スマート農業技術の実証プロジェクトを実施



岩見沢市では、水稲の生産コストの削減と農家所得の増加を目指し、自動給水弁等の実証やセンサネットワークの構築などを進めるとともに、5G 技術を用いて自動走行トラクターなどの遠隔監視制御の実用化に向けた実証も開始。

新十津川町では、家族経営をモデルとした高品質・良食味米生産を実現する技術体系の確立を目指し、自動化技術やリモートセンシングデータの活用などを実証。将来の担い手となる子どもたちに農業の魅力を知ってもらうための普及啓発活動も幅広く展開。

(4) 持続可能で活力に満ちた農村の確立

- 食・滞在・体験等を提供する農村ツーリズムの推進など、都市・農村交流の促進により交流人口の拡大を図るとともに、農業の魅力を将来の担い手に積極的に発信し、持続可能な農村の構築を推進します。
- 多面的機能を支える地域の共同活動を促進するとともに、中山間地域等における生産活動を継続するための取組を推進します。

3 これまでの取組状況等

(1) 水稻を基本とした複合経営の確立と農家所得向上

- 米や野菜、花きなど空知産農産物のPR。【R3～R4】
- 「空知型輪作」や野菜・花きなどを含めた複合経営を推進。【R3～R5】

(2) 担い手の育成と多様な人材の確保

- 就農間もない農業者など栽培などを学ぶ研修会を開催。【R3～R5】
- 次代の農業経営を担う後継者や法人従業員、新規参入者へスマート農業や省力化品目を学ぶ研修会を開催。【R4～R5】
- 農福連携のモデル農家2戸を選定し、実証試験、関係者会議、視察を行うなど定着に向けたサポートを実施。【R3～R5】
- 農福連携の体験会や、就農定着を目的とした学生向けワーキングホリデーを実施。【R4】

(3) 空知農業を支える基盤整備とスマート農業の推進

- スマート農業の実現に向けた基盤整備モデルを立案や、農地整備事業（経営体育成型）などを計画的に実施。【R3～R5】
- スマート農業技術の普及及び効果的な活用方法の検証するため、市町・農業関係機関・団体、普及・研究組織からなる「空知スマート農業推進協議会」を設置。【R3】
- 「空知スマート農業推進協議会」において、シンポジウムの開催やアーカイブの作成等により先進的な技術の情報を共有。【R4～R5】

(4) 持続可能で活力に満ちた農村の確立

- 管内関係機関に北海道農泊推進ネットワーク会議への参画を呼びかけ、農泊地域のネットワークを構築。【R3～R5】
- 農業・農村の多面的な農地の維持や地域資源の質的向上のための協同活動を支援。【R3～R5】

4 取組の成果や課題

(1) 取組の成果

- 札幌市内での「空知フェア」（米すくいによる空知産米のPRや民間事業と連携した空知産農産物の販売）の開催。（R3～R5：計4回開催）
- 産学官連携による大手コンビニでの「そらちの花」の全道販売。
- 「空知型輪作」や野菜・花きなどを含めた複合経営を推進に向けた普及活動重点課題（9課題）。
- 管内の新規就農者数。《R3:80名→R4:71名》
- 農福連携の取組増加
農業者（R4:1戸→R5:4戸）+1JA、福祉事業者（R4:1社→R5:4社）
- 「スマート農業技術に適応した農業基盤整備モデル」の作成
- スマート農業の普及組織（12市町）、独自事業の実施（12市町）、農業機械等の導入（R2:994台→R3:2,296台）
- 北海道農泊推進ネットワーク会議への参画 R3 7組織 → R5 8組織
- 中山間地域等直接支払交付金 R2 集落協定数 119 協定参加数 3,434（人・組織）
R4 集落協定数 123 協定参加数 3,256（人・組織）

- 多面的機能支払交付金

| | 農地維持支払 | 資源向上支払（共同） | 資源向上支払（長寿命化） |
|----|--------|------------|--------------|
| R2 | 129組織 | 129組織 | 3組織 |
| R4 | 118組織 | 115組織 | 3組織 |

(2) 課題

- 水田活用直接支払交付金の見直しへの対応や農福連携に対応できる福祉事業所が少ない。
- ICT等の新技術に関する意識や取組進捗の地域間格差、新型コロナの影響による来訪者の減少。

5 今後の展開方針

(1) 水稻を基本とした複合経営の確立と農家所得の向上

- 空知産農産物のブランド力向上に向けた取組の継続。
- 水田活用直接支払交付金の見直しを踏まえた適正な輪作体系の確立と安定生産の推進。

(2) 担い手の育成と多様な人材の確保

- 多様な人材確保に向けた作業体験会や研修会の開催、農福連携に関する相談窓や事例集等での普及啓発。

(3) 空知農業を支える基盤整備とスマート農業の推進

- 空知スマート農業アクションプランに基づく実態把握、情報共有、技術実装、広域展開に取り組む。

(4) 持続可能で活力に満ちた農村の確立

- ポストコロナを踏まえた都市農村交流や協同活動の推進。

1 地域農業・農村の「めざす姿」

地域を大切に、地域から期待される都市近郊農業

- 都市近郊という立地を活かし、地域の農産物の直売活動や農業体験などを通じて、地域資源である「農」と「人」の結びつきが深まっているとともに、地域とのつながりが強化され農業者の「つくり・伝える」楽しみが増す、魅力ある地域農業が展開されています。
- 多様な担い手が経営形態に即した農業生産基盤づくりとICTなどのスマート農業技術を選択でき、多種多様な農業生産体制が整備されています。
- 女性の新規参入や経営参画、若手農業者や多様な人材の力を活かした法人化、円滑な第三者経営継承が行え、農業が地域コミュニティを支える環境が整っています。

2 「めざす姿」の実現に向けた主な取組の方向

◎共通

○担い手や多様な人材の確保の取組

- ・スマート農業技術などを活かし、農地や農業技術が次世代の担い手へ円滑につながるよう、農業技術のデータ化など地域関係者間の情報連携を図ります。
- ・女性の新規就農やパートナーの経営参画を推進します。
- ・地域農業を担う人材の確保に向けた取組と法人化や第三者経営継承に向けた検討を推進します。
- ・地域のリーダーづくりとともに、短期労働者とのマッチングや農福連携などの多様な人材の確保を推進します。
- ・農業や関連産業が就職の選択肢として選ばれる地域農業の情報発信を図ります。

○都市近郊農業を活かした取組

- ・地場産品の供給場所であり、地域住民と農業者との交流拠点となる直売所の維持発展を推進します。
- ・大消費地への供給を支える地域の農業と農産物の認知度向上とともに、消費者や食品加工事業者等のニーズに応える生産体制などの確立を推進します。
- ・農業体験や農産物の加工などを通じた関係人口の増加と農業者のやりがい活動を支援します。
- ・世代につなげる食育活動により、幅広い年齢層へ向けた地場産品の理解促進を図ります。

◎石狩北部

- ・良質米産地としての生産体制の維持を図ります。
- ・花きやミニトマトなどの園芸作物の生産を通じた、新規就農者や高齢農業者などの担い手の確保を推進します。
- ・田畑輪換などの輪作による土地利用型農業を推進します。
- ・区画整理などの土地基盤整備の推進を図るとともに、地域の主要な作物である水稻等における水田の自動給水、リモートセンシングなどスマート農業技術を活かした生産性の高い農業づくりを推進します。

◎石狩南部

- ・米、小麦などの大規模土地利用型農業やブロッコリーなどの園芸作物を組み合わせた複合経営に即した生産体制の維持を推進します
- ・畑作物などにおける機械化や、可変施肥、リモートセンシングなどのスマート農業技術を活かした省力化、効率性の高い農業と規模拡大を目指す農業者への農地集積・集約化を推進します。
- ・共同化や法人化などによる畑作・畜産経営等の生産の維持拡大を図ります。



女性単独就農予定の農業研修生と北海道指導農業者



交流の拠点となる直売所



3 これまでの取組状況等

(1) 担い手や多様な人材の確保の取組

- スマート農業技術の現地活用事例や技術情報をオンラインセミナー【R3】及びスマート農業の地域定着に向けた実演会【R4】の実施。
- 農業系大学を対象としたセミナー・バスツアーの実施。【R3】
- 東京での就農相談会「新・農業人フェア」への参加【R3～R5】のほか、地域での環境モニタリング技術を用いた新規就農者等の定着に向けた取組を実施【R4】及び就農希望者向け日帰り農業体験ツアーを開催。【R5】



「新農業人フェア」

(2) 都市近郊農業を活かした取組

- 直売所の状況把握及び直売所と連携し交流拠点イベントの実施。【R3】
- 「食」と「農」を繋ぐサポーターづくりを目的に、「野菜ソムリエコミュニティ札幌」と連携し、管内農畜産物直売所等との意見交換会やブロックリー収穫体験などの現地研修を実施。【R4～R5】
- 製菓調理専門学校と連携し、生産者との交流や作業体験を通じた授業（現地学習）を実施。【R4～R5】
- 管内の多種多様な農畜産物や加工品などを使ってレシピ開発したおむすび「いしかり8」について、ホクレンと連携して、全8種類を販売するイベント等を開催。【R4～R5】



スマート農業実演会



野菜ソムリエ現地研修

(3) 地域性を踏まえた農業生産基盤の維持・強化

- 土地利用型作物の安定生産のため、春まき小麦の適正栽培（は種粒数・深度の適正化、出芽率の向上等）や衛星データを活用した水稻品種選択、施肥改善などの取組を実施。
- 省力化技術の導入と定着のため、地域農家と協力し、DIYの環境モニタリング装置と連動したビニールハウス側窓の自動開閉化（きゅうり）や自動給水システムを利用した養液隔離栽培（なす）などの実証。



「いしかり8」のPR

4 取組の成果や課題

(1) 取組の成果

- 日帰りの農業体験ツアーなどを通じて地域や農業者と直接ふれあうことにより、就農への具体的なイメージづくりや意欲となり、本格的な就農相談や研修へと繋がった。
- キッチンカーによる「いしかり8」の販売等では、地元農畜産物のPRのほか、フードマイレージなど環境面からもアプローチし、消費者の関心を引いた。



ミニトマト生育実態調査

(2) 課題

- 都市圏で労働力が競合する中、農業も選択肢の一つと捉えてもらうため、都市近郊農業の魅力などを幅広くPRしていき、就農相談等に繋げ、意欲ある多様な若者などを地域に定着させていくことが求められている。
- 大消費地で道内外の産地から集まる様々な食材と競合し、地元産への注目度が相対的に低くなりがちであることから、地元生産者と消費者、農と食を繋ぐ取組が求められている。

5 今後の展開方針

(1) 担い手や多様な人材の確保の取組

- 先端技術を活用した「スマート農業」の円滑な導入に向けた取組を引き続き推進。
- 引き続き、女性農業者が働きやすく、活動しやすい環境づくりに向けた取組や、女性同士のネットワーク強化やグループ活動の活性化・拡大に向けた取組を推進。
- 就農・人材の実態の把握や受入マニュアルの作成、農業体験ツアーの実施、農業人フェアへの出展、地域農業の魅力を発信など、円滑な就農に向けた取組を一層推進。

(2) 都市近郊農業を活かした取組

- 地産地消の推進、都市と農村の交流拡大、6次産業化の進展など総合的な支援に取り組む。
- 道民や地域への農業・農村の理解と支援の輪を拡大する情報発信や、農山漁村へ観光客を受け入体制づくりへの支援など、地域における「農村ツーリズム」の取組も推進。
- 生産者と消費者を繋ぐサポーターやインフルエンサーの人材等を育てる取組などを推進。

(3) 地域性を踏まえた農業生産基盤の維持・強化

- 引き続き、ほ場の大区画化や採水性の強化、農業水利施設等の整備など計画的かつ着実な推進や、新品種・新技術の開発・普及等を推進。

1 地域農業・農村の「めざす姿」

多様な人材の活躍によるブランド力ある後志農業

<各地域のブランド強化の推進方針>

- 北部後志地域【果樹産地の維持・発展、ミニトマト等の高品質・安定出荷】
- 岩宇地域【「らいでん」ブランドの強化】
- 羊蹄山麓・南後志地域【「ようてい」ブランドの強化】

2 「めざす姿」の実現に向けた主な取組の方向

後志地域のブランドの強化を図るため、人材確保などの各種課題の解決に向け、次の取組を展開します。

(1) 多様な担い手や人材の確保・育成

- 親子間継承などをより一層促進するための環境を整備します。
- 新規参入希望者に対する関係機関が連携した一貫的（相談、研修、就農、定着）な受入体制を整備します。
- 生産性向上や労働負担の軽減につながる営農支援組織の育成や協業化・法人化を推進します。
- 他産業を含めた関係機関の連携による人材マッチングの取組を推進します。

(2) 生産基盤等の整備と生産性・作業性の向上

- 計画的な担い手への農地集積や、基盤整備による農地の大区画化を推進します。
- ドローンによる農薬・肥料の散布やハウスの環境制御技術など、地域実態に即したスマート農業技術の普及を推進します。
- ストックマネジメントの取組など、共同利用施設の老朽化対策を推進します。
- ジャガイモシストセンチュウのまん延防止など、病害虫の防除対策を徹底します。
- 低コスト・省力化技術の導入促進や新品種の普及・定着を図ります。
- 後志地域農業技術支援会議を活用し、地域農業が抱える技術的課題解決に向けた総合的支援を図ります。

(3) 高付加価値化農業の推進

- SDGsの目標達成にも貢献するクリーン農業やGAPを推進します。
- ニセコリゾートなどの観光と連携した地域食材の活用を推進します。

(4) 鳥獣被害防止対策

- 地域の農業被害の実態に即した効果的な被害防止対策を支援します。
- 外来生物であるアライグマの根絶に向けた捕獲を推進します。

3 これまでの取組状況等

(1) 多様な担い手や人材の確保・育成

- 若手農業者の技術習得と若手農業者同士の交流を目的に、農業ゼミナールを開催。【R3～R5】
- 新規就農者等の知識・技術の向上や交流を深めるため、新規就農者・研修生等交流会を開催。【R3～R5】
- 新規就農対策市町村担当職員同士の情報・意見交換会を開催。【R3】
- 株式会社 JTB 北海道事業部が人材を募集し、農作業受委託事業が実施。
- 道内ホテルの従業員が農業者 2 戸（仁木町）で農作業に従事。（人手不足解消の一助）
- また、振興局では、当取組の意見交換において成果と課題を共有。【R3】



【農業ゼミナール】

(2) 生産基盤等の整備と生産性・作業性の向上

- 農地の大区画化、排水対策、農業水利施設の更新・長寿命化等の農業農村整備事業の実施。【R3～R5】
- ニセコ町は、令和 3 年度産地生産基盤パワーアップ事業でドローン導入し、農薬散布における省力化を目的としたデモフライトを実施。【R3】
- 後志スマート農業推進会議を実施。【R3～R4】
- ICT を活用したスマート農業を体験する女性農業者向けの研修会を実施。【R4・R5】
- ICT を活用した草地管理技術普及促進に関する研修会を実施。【R5】
- ジャガイモシストセンチュウまん延防止に向けた取組支援。【R3～R4】



【農業・農村基盤整備事業】



【ICT 活用研修会】

(3) 高付加価値化農業の推進

- JGAP 認証取得費用の補助。＜倶知安農業高校（馬鈴薯・畜産）、真狩高校（トマト・ミニトマト）【R3～5】、留寿都高校（馬鈴薯）【R4～R5】＞
- 後志有機農業ネットワーク推進会議を実施。【R4～R5】
- 仁木町産シャインマスカットの長期貯蔵試験を実施。【R3】
- 「しりべし商談会 2022」に仁木町産高級シャインマスカットを出展・PR 活動を実施。【R4】
- 販売活動レベルアップ講座の開催。【R4～R5】
- 「しりべし食商談会 2023」に参加。【R5】



【しりべし食商談会】

(4) 鳥獣被害防止対策

- 鳥獣被害防止総合対策事業等を活用して、17 市町村・5 漁協の 22 協議会と連携しながら被害防止対策を実施。【R3～R5】



【鳥獣害防止対策（箱罾）】

4 取組の成果や課題

(1) 取組の成果

- 農業ゼミナール等の参加により、営農技術の習得や農業者同士の繋がりが深まった。
- 高付加価値化に向けて、講座や商談会への参加により、知識や実践技術が向上。

(2) 課題

- 農家人口減による担い手を含む人材の確保。
- 比較的小規模な経営体が多いため、地域実態に即したスマート農業技術の普及。
- 高付加価値化に取り組む農業者の資質向上・管内地域間の連携。

5 今後の展開方針

(1) 多様な担い手や人材の確保・育成

- 研修会等の機会を増やし、新規就農者や若手農業者との繋がりを深め、担い手の育成を推進。

(2) 生産基盤等の整備と生産性・作業性の向上

- 地域の問題・課題を踏まえ、小規模経営にも目を向けたスマート農業や生産基盤等の整備を推進。

(3) 高付加価値化農業の推進

- 引き続き、GAP に関する普及啓発や有機農業の推進、シャインマスカット栽培技術の向上を推進するとともに、高付加価値化に取り組む農業者の育成に取り組んでいく。

(4) 鳥獣被害防止対策

- 引き続き、鳥獣被害防止総合対策事業等を活用し、各協議会と連携のうえ、計画的な捕獲・追い払い、捕獲の担い手の育成など、被害の防止と捕獲活動強化に向けた地域の取組を支援していく。

1 地域農業・農村の「めざす姿」

「食の宝庫」を活かして嫁ぐ いぶり農業

- 意欲ある担い手への農地集積・集約化により、農地が効果的に維持されており、経営の効率化が図られ、高い農家所得を実現しています。
- 地域が一体となった新規参入者の受入が進むとともに、農福連携などによる多様な人材の就農機会がつけられており、安定した担い手・人材の確保が図られています。
- ウポポイ（民族共生象徴空間）などの地域資源や様々な分野と連携し、バラエティに富んだいぶり農業・地域農産物の魅力が広く浸透しています。

2 「めざす姿」の実現に向けた主な取組の方向

(1) 農家所得の向上

- 水稻の高密度は種・短期育苗など省力化栽培技術の導入や、自動操舵システムやUAV（無人航空機）を活用した肥料・農薬の散布など個々の経営実態にあったICTの導入により、更なる省力化と労働力の再分配を推進し、経営効率の向上を図ります。
- 担い手への農地集積・集約化や、生産性向上や高収益作物への転換促進につながる農地の大区画化・汎用化などの農業生産基盤整備を推進します。
- 畜舎（農場）への伝染性疾病侵入防止対策や家畜の損耗防止につながる取組を推進します。



基盤整備事業によるほ場の大区画化
(厚真町)



多面的機能直接支払交付金を活用した
植栽活動（洞爺湖町）

(2) 安定した担い手・人材の確保

- 各地域での研修・受入れ体制を有効活用し、地域間の連携を強化することで、胆振管内全体での地域への定住と農業への就業を推進します。
- 農業生産現場の労働環境改善や農福連携、外国人材の活用を進め、多様な人材を確保します。
- 多面的機能を支える共同活動への支援など、集落機能の維持向上につながる取組を進めるとともに、快適で魅力ある農村環境づくりを推進します。

(3) いぶり農業の魅力発信

- 観光と連携した地域食材の活用促進や、和牛、ハスカップ、メロン、有機農産物など地域を代表する製品のブランド力強化、消費者と農業者を結び付ける取組を通じて、地域農産物の魅力を効果的に発信します。
- 観光業など多様な主体と連携し、都市と農村の交流拡大を進めることにより、農業・農村に対する理解促進を図るとともに、地域の活性化を推進します。



都市部からの教育旅行を積極的に受け
入れている「そうべつくだもの村」
(壮瞥町)

3 これまでの取組状況等

(1) 農業所得の向上

- 担い手への農地集積・集約化や、生産性向上・高収益作物転換促進につながる、農地の大区画化・汎用化のための農業生産基盤整備を実施。
《3町9地区 42ha【R3】、5町16地区 76ha【R4】、7町13地区 88ha【R5】で実施》
- スマート農業の普及推進のため、農業者や市町、農業関係団体を対象とした研修会の開催や、地域への ICT 機械等導入を支援。《管内導入状況等実態把握【R4】、ICT 導入に向けたスマート農業研修会の実施。【R5】、事業活用による ICT/省力化機械の導入支援。【R4～R5】》
- 高病原性鳥インフルエンザに関し、振興局・市町村職員、農協職員を対象として、初動対応、防疫拠点の設置や防疫作業など実践的な訓練を実施。【R3、R5】
- 家保や普及センターによる家畜飼養者に対する家畜伝染病発生防止対策の指導。【R3～R5】



【家畜伝染病の防疫訓練】

(2) 安定した担い手・人材の確保

- 管内の担い手不足解消や新規参入者の定着を推進する取組、情報発信の実施。【R3～R5】
- 多面的機能を支える共同活動への支援など、集落機能の維持向上につながる取組を実施。
【多面的機能支払交付金の実施】
《6町（面積18,104ha）【R3】、7市町（面積21,089ha）【R4】、7市町（面積21,005ha）【R5】》
- 農業フェストへの参加。【R3～R5】
- 管内市町、いぶり農業法人ネットワーク等と連携して新規就農・法人雇用に向けた「いぶり就農フェア」を1月に実施。【R5】



【いぶり就農フェア】

(3) いぶり農業の魅力発信

- 管内の生産物を使用した「おむすび」を開発。SNS等を使用したPRを行い、地域農産物の魅力を発信。【R3～R4】
- 地域食材の消費拡大のため、地元の有名シェフの協力の下、簡単に調理可能な料理レシピの発信。【R5】
- ハスカップなどの地域の旬の食材をSNSや地域イベントで発信。【R5】
- 地域食材を用いた高校生向け食育授業の実施。【R3～R5】



4 取組の成果や課題

(1) 取組の成果

- 所得向上に向けた生産基盤の整備や ICT/省力化機械の導入が図られた。
- 家畜伝染病の発生防止に向けて関係団体との連携強化、飼養者の意識醸成が図られた。
- 担い手、人材確保に向けたオールいぶりでの取組を推進できた。
- イベントや SNS 等を活用した魅力発信ができた。

(2) 課題

- ICT 機械等は民間主導で様々な部門に及んでいることから、地域特性や活用場面を踏まえたスマート農業の推進・展開が必要。
- 伝染病の発生は予断を許さないため、引き続き発生予防の指導が必要。
- 担い手、人材確保は継続的・長期的な取組が必要。
- 魅力発信については、効果的な手法が必要。



【いぶり農業の魅力発信】

5 今後の展開方針

(1) 農業所得の向上

- 担い手への農地集積・集約化、生産性向上・高収益作物転換促進のための農業生産基盤整備の推進。
- スマート農業について、市町村や農業団体のほか、企業とも連携して、地域にあったスマート農業技術導入や請負作業の活用等を推進。
- 今後も家畜伝染病の発生防止に向け、防疫演習や事業者への指導等を実施。

(2) 安定した担い手・人材の確保

- 管内地域の研修受入情報などのパンフレットを作成し、北海道新規就農フェアなどへの参加や情報発信など、今後も定住、新規就農、法人・パート雇用の取組を推進。
- 引き続き、多面的機能支払交付金を活用し、集落機能の維持向上に繋がる取組を推進。

(3) いぶり農業の魅力発信

- 各種イベント等様々な機会を捉え、地域農産物の消費拡大に繋がる取組を実施。
- 管内は、観光の幅が広いターゲットを絞るなど工夫し、都市と農村の交流拡大の取組を推進。

1 地域農業・農村の「めざす姿」

未来へつながる、魅力あふれる日高農業

- 水稲作付面積を維持し、将来にわたって農業水利施設等が有効活用され、地域の生産力を維持するとともに、美しい農村風景を形成しています。
- 施設園芸、畜産及び畑作については、現状と同等以上の生産規模（作付面積・生産量・飼養頭数など）を維持し、ブランド力の高い農産物を安定的に供給することで、市場や消費者などからの需要と信頼にえています。
- スマート農業をはじめとした新技術や新品種の導入が進み、生産力と収益力の高い魅力ある農業を展開しています。
- 地域の実情に応じた新たな就農形態や経営継承によって農業経営者の円滑な世代交代が進み、特色のある地域農業を将来にわたって継承しています。
- 働きやすい魅力のある農業現場で、担い手とともに雇用人材などの担い手を支える人材が生き生きと活躍しています

2 「めざす姿」の実現に向けた主な取組の方向

(1) 生産力・収益力の高い魅力ある農業の展開

- 水田地帯における作付面積の減少を食い止めるべく、地域の農業者による作業の共同化などの効率的な手法について管内の実践事例の調査分析を行い、横断的な展開を推進します。
- ドローンによる水田防除や園芸施設環境計測・制御システムなどのスマート農業技術をはじめとした新技術や新たな知見の共有や普及を推進します。特にスマート農業については、日高管内でのモデルケースの育成を推進します。

(2) 強い馬づくりの推進

- 「国際的に通用する強い馬づくりと日高の軽種馬生産のめざす姿（軽種馬生産構造改革推進会議）」に基づき、優良な繁殖牝馬及び種牡馬の計画的な更新と導入をはじめ、地域の既存施設を活用した研修会の実施による飼養管理技術や育成調教技術の高度化、新技術の導入による良質な飼料生産などに取り組み、強い馬づくりを推進します。
- 地域内外での雇用人材の掘り起こし対策事例の横断的な展開を図るとともに、他産業と比較しても遜色のない就労環境の実現に向けた取組を推進します。

(3) 新規就農者の育成・確保と雇用人材の確保

- 既存の経営資産の有効活用や新規就農者の育成・確保に向け、地域内外の実践事例の調査分析により、地域の実情に合った「ひだか型第三者経営継承」などの手法確立に取り組みます。また、後継者確保のためには、経営の安定及び経営資産の維持が重要であることから、農業保険への加入を促進します。
- 家畜伝染病の発生・まん延防止のため、地域の関係機関が連携した実践的な防疫訓練を実施します。また、一部地域で発生しているヨーネ病については、地域関係機関が一体となり感染牛の摘発・とう汰及び発生施設の清掃・消毒などの対策を徹底します。

3 これまでの取組状況等

(1) 生産力・収益力の高い魅力ある農業の展開

- 平取町の利用組合の機能拡充(田植機、乾燥機)を支援し、集落営農化に向けたシステムづくり、飼料用米の作付増加による水田機能の維持を図った。【R3】
- 各町で、ドローンや環境制御システム等の実演会の実施。普及センター主催のスマート農業の研修会や体験会を開催し、技術情報の共有や普及を推進。【R3】
- 自動操舵トラクタの導入を支援。【R4】
- 日高町の農作業受託法人における堆肥関連機械の導入を支援し、稲作と酪農・肉牛との耕畜連携を推進。【R3~R5】
- ICT農業を活用した牧草の品質と収量確保に不可欠な草地の植生改善の省力化に向け、ピンポイント草地更新技術に係る研修会を開催。【R4】
- 全自動飼料搬送装置やドローン、自動操舵装置などの導入を支援。【R5】
- 環境モニタリングデータを活用した園芸作物の先進事例調査を実施。【R5】



【スマート農業技術体験会】



【ICT研修会】

(2) 強い馬づくりの推進

- 日本軽種馬協会静内種馬場における優良種牡馬の導入・供用や普及センターによる軽種馬草地管理改善指導等の実施。【R3~R5】
- ひだか・ホース・フレンズによる就農養成プログラムを支援し、軽種馬産業に従事する人材確保をサポート。【R3~R5】
- 軽種馬獣医療関係者と連携し、獣医学生の実習を受け入れ。【R4~R5】



【獣医学生インターシップ】

(3) 新規就農者の育成・確保と雇用人材の確保

- 担い手の受入体制及び指導体制の資質向上を目的に管内指導農業士・農業士を対象とした研修会の実施。【R3~R5】
- 他産業に従事する農業体験希望者が参加しやすく、魅力を感じる手法の確立を目的に管内複数町を巡る短期滞在型農業体験を実施。【R3~R5】



【指導農業士・農業士研修会】

(4) 家畜伝染病の発生・まん延防止対策の推進

- 振興局職員を対象とした実践的な家畜伝染病防疫訓練の実施。【R3】
- 軽種馬における伝染病防疫対策や注意喚起の啓発用DVDを作成・配布。【R3】
- 鳥インフルエンザ発生時の円滑な対応のため、農場と連携した防疫計画の精査や、行政機関や農場などと連携した埋却訓練を実施。【R4~R5】
- ヨーネ病対策として、感染牛の摘発・淘汰を行うとともに、地域関係機関と一体となり、清掃・消毒等に対する支援を実施。【R4~R5】



【家畜伝染病防疫啓発DVD】

4 取組の成果や課題

(1) 取組の成果

- 農作業受託法人の堆肥化関連機械の導入を支援。稲作と酪農・肉牛との耕畜連携が促進。【R3~R5】
- ひだか・ホース・フレンズでは、実人数43名の研修生を受け入れ、うち12名ほどが軽種馬産業に定着するなど人材確保に寄与。【R3~R5】
- 管内指導農業士・農業士を対象とした現地研修会等の参加者関係機関含め156名。【R3~R5】
- 管内全町で開催した短期滞在型農業体験の参加者数10組15名。【R3~R5】



【埋却訓練】

5 今後の展開方針

(1) 生産力・収益力の高い魅力ある農業の展開

- 引き続き、地域の農業者による作業の効率的な手法について、管内外の実践事例の調査分析を行い、横断的な展開を推進及び、スマート農業技術など新技術や新たな知見の共有や普及の推進や導入支援。

(2) 強い馬づくりの推進

- 引き続き、優良種牡馬の導入や普及センターによる技術指導等、強い馬づくりを推進。
- 軽種馬産業に従事する人材確保のため、引き続き、ひだか・ホース・フレンズによる就農養成プログラムの支援や、獣医学生の実習受け入れ等、獣医師の確保に取り組んでいく。

(3) 新規就農者の育成・確保と雇用人材の確保

- 引き続き、管内指導農業士・農業士を対象とした担い手の育成・確保を目的とする研修会等や、新規就農者の地域定着を目的とするネットワーク構築及び研修会を実施。

(4) 家畜伝染病の発生・まん延防止対策の推進

- 引き続き、鳥インフルエンザ発生時の円滑な対応に向けて、実践的な防疫訓練や、ヨーネ病感染牛の摘発・淘汰及び発生施設の清掃・消毒など、関係機関と一体となり対策を徹底。

1 地域農業・農村の「めざす姿」

小さくとも「キラリと輝く!!」道南農業

- 農業生産基盤の強化による生産性の向上と担い手への農地の集積が進むとともに、広域的な集出荷体制のもと、野菜や花きなどの高収益作物の生産が拡大しています。
- スマート農業技術を活用した効率的な農業経営が展開されているとともに、多様な人材や、TMRセンターなどの営農支援組織が安定した農業生産を支えています。
- 地域の醸造用ぶどうや酒米を活用したワイナリー・酒蔵をはじめ、食や観光、企業や教育・試験研究機関等、様々な分野や組織が連携して地元に着した取組を進め、地域が活性化しています。
- 客観的な認証制度の取得などにより、消費者としっかりとした信頼関係を築いており、地域ブランド力を一層高めています。

2 「めざす姿」の実現に向けた主な取組の方向

(1) 農業生産基盤の強化と広域的な生産体制の整備【基盤づくり】

- 大区画化や暗渠排水整備などの農業農村整備事業を計画的に推進します。
- 販路拡大や輸出などを視野に入れ、農業協同組合の施設を核とした生産・流通体系の構築を図ります。

(2) 経営の安定化と多様な担い手の育成・確保【人づくり】

- 次世代への円滑な経営継承や経営体質強化のため、家族経営をはじめとした農業経営体の実情に即した支援を進めます。
- ハウス内の環境制御や水田の水管理システムなど、スマート農業技術を取り入れた省力・効率的な農業生産を積極的に推進します。
- 営農支援組織の体制整備や大規模酪農法人の設立などを進めるとともに、障がい者や外国人材などを含めた多様な人材が活躍できる環境整備と地域の理解醸成に努めます。

(3) 消費者ニーズを的確に捉えた地域ブランドの確立【ものづくり】

- 食品関連産業や水産業、観光などの他分野との連携強化を進め、新規需要の開拓や消費者ニーズを踏まえた高収益作物の導入、高付加価値化、6次産業化などの取組への総合的な支援を進めます。
- 地産地消や食育、クリーン農業、GAPなどの取組を通じ、道民や消費者の地域農業への理解醸成に努めます。
- 食料消費の変化に適切に対応するとともに、地域農産物の魅力発信を進めます。
- 食と観光が連携した教育旅行や農泊の推進、都市と農村の交流拡大を進めます。



【農業農村整備事業（大区画化）】



【スマート農業（自動環境制御）】



【農福連携（花き選果場）】



【企業参入（養液栽培施設）】



【GI登録（今金男しゃく）】



【農泊・農作業体験
（教育旅行の受入）】



【新たな地域ブランドの創出
（醸造用ぶどう栽培）】

3 これまでの取組状況等

(1) 地域ニーズを踏まえた農業農村整備事業等の実施

【渡島・檜山共通】

- 農地の大区画化、排水対策、農業水利施設の長寿命化、防災減災対策等の整備事業の実施。【R3～R5】
- スマート農業技術の普及・推進のため基盤整備事業とあわせた自動操舵システム等の導入。【R3～R5】
- スマート農業技術や高収益作物の導入が容易となるほ場の大区画化や農地の排水対策、パイプライン化など、計画的な農業農村整備事業の実施。【R4～R5】

(2) 地域農業の実態に即した経営・営農指導と担い手確保の取組

- 法人化等の検討に向けた「農業経営セミナー」「経営相談会」を開催。【R4～R5】

【渡島】

- ICT技術等を活用したスマート農業技術の実証試験と普及活動の実施。
 - ・環境制御機器を活用したトマト栽培【R3～R5】実証ほ1か所・スマート農業の取組等をセミナーにおいて地域で共有し、普及。【R4～R5】
- 女性農業者向けスマート農業研修会の開催。【R3】
- 新規就農・就業者の確保に向けた「農業のお仕事相談会」【R4～R5】、「農業体験ツアー」【R4～R5】各1回実施。
- 農福連携の推進のため、作業指導を行う職業指導員向け作業勉強会の定期的な開催【R4～R5】、トマトやカーネーションの管理作業を障がい者が実際に行う「お試しノウフク」を実施。【R4～R5】

【檜山】

- ICT技術等を活用したスマート農業技術の実証試験と普及活動の実施。
 - ・ハウス立茎アスパラガスの自動かん水システム【R3～R4】実証ほ4か所、講習会等を実施。
 - ・地域と企業が連携した土壌センシング等【R3】実証ほ15か所。
- 種馬鈴しょの病株抜き取り負担軽減に向けた、ドローン等のICT技術を活用した実証事業【R5】見学会1回を実施。
- 農業生産コストの低減に向け、(株)トヨタ自動車と連携した経営カイゼン塾の開催や次代への円滑な経営継承に向けた個別経営指導の実施。【R3】
- 農業法人化を推進するための青年農業者学習交流会の開催。【R5】
- 農福連携の推進のため、農作業体験会や見学会の実施。
 - ・ハウス立茎アスパラガスの管理作業（除草や下枝取り等）【R3～R4】
 - ・馬鈴しょの出荷用段ボール箱作り【R5】



【環境制御機器】



【カーネーション管理作業】



【ICTを活用したスマート農業技術】



【農福連（段ボールづくり）】



【GAP啓発研修会】

(3) 地域農産物の特産化への支援と企業等との連携

【渡島・檜山合同】

- 食育セミナーの開催。【R4～R5】各1回
- 有機農業勉強会の開催。【R3～R5】各2回

【渡島】

- 6次産業化の開催やさつまいも生産及び加工への支援、酒米の有効活用及び特産物化に向けた新商品開発への企業協力依頼。【R3】
- 地域農産物の魅力を伝える食材マップ等の作成と直売・加工情報の発信。【R3～R5】
- JAや農業試験場、工業技術センター等と連携して進めているさつまいもの生産や加工等の取組、女性・高齢者チャレンジ活動表彰事業の最優秀賞を受賞。（JA函館市亀田女性部）【R4】
- さつまいもの販路拡大に向けた生産体制及び貯蔵施設等の先進地視察を実施。【R4～R5】
- 農業体験に係るセミナーを開催。【R5】

【檜山】

- トヨタ生産方式を事例としたGAP啓発研修会の開催。【R3】
- かぼちゃの輸出に向け企業と連携し、国際水準GAPの認証取得を支援。（トヨタ式カイゼン手法の導入）【R4】

4 取組の成果や課題

(1) 取組の成果

【農業農村整備事業の推進】

- 水田の大区画化や排水対策により高収益作物の生産が拡大した。【渡島】
- 排水対策を行ったほ場で収穫された高品質なぶどうを使い、今年、地区内に新設されたワイナリーで醸造が開始された。【渡島】

【道南におけるスマート農業技術の推進】

- 主力作物であるトマトの栽培について、モニタリングデータに基づく環境制御実証試験を実施し、トマトの品質・収量の向上効果と省力化及び費用対効果の検証を行ったところ、労働力の省力化が図られた。【渡島】
- ICT活用による種馬鈴しょの生産技術実証について、今年度は種馬鈴しょの画像データ収集及び関係者向けの見学会を実施し、取組状況や課題が共有できた。【檜山】

【農福連携の推進】

- カーネーション農場で、職業指導員向けの農作業勉強会や障がい者によるお試しノウフクの実施により、スタンダードカーネーションの管理作業（花芽かき）ができることを確認。
- 昨年度の実証結果に基づきトマトを中心としたマッチング窓口をJAが開設したところ、新たに福祉事業所へ作業依頼した農業者が増加。【渡島】
- 福祉事業所の施設利用者を対象に、馬鈴しょの出荷用段ボール箱の組み立て作業体験会を実施し、関係者が見学。農作業体験会等を通じて農福連携に関心を持つ福祉事業所・農業者は増加。【檜山】

(2) 課題

【道南におけるスマート農業技術の推進】

- ICT技術等を活用したトマト栽培について、省力化や品質・収量の向上につながる養液栽培技術の検証を行ったところ、猛暑の影響から土壌病害が発生したため、来年度は気温上昇や土壌病害に対応した実証実験の実施が必要。【渡島】
- ICT活用による種馬鈴しょの生産技術実証について、ドローンは風の影響を受けやすく飛行が不安定になりやすいことや、AIの判定精度向上が課題。【檜山】

【農福連携の推進】

- 長ねぎなどの他作物における就労作業の可能性について継続的な取組の実施が必要。【渡島】
- 農福連携に関心を持つ福祉事業所・農業者を増やすなど、継続的な取組の実施が必要。【檜山】

5 今後の展開方針

(1) 農業生産基盤の強化と広域的な生産体制の整備【基盤づくり】

- 引き続き、大区画化や暗渠排水整備などの農業農村整備事業を計画的に推進。
- 販路拡大や輸出などを視野に入れ、農業協同組合の施設を核とした生産・流通体系の構築。

(2) 経営の安定化と多様な担い手の育成・確保【人づくり】

- 次世代への円滑な経営継承や経営体質強化のため、家族経営をはじめとした農業経営体の実情に即した支援を今後も推進。
- 生産者が活用可能なICT技術となるよう、AIの判定精度向上を目指し、引き続き実証事業を実施。
- 営農支援組織の体制整備や大規模酪農法人の設立などを進めるとともに、障がい者や外国人材などを含めた多様な人材が活躍できる環境整備と地域の理解醸成を今後も推進。

(3) 消費者ニーズを的確に捉えた地域ブランドの確立【ものづくり】

- 引き続き、食品関連産業や水産業、観光などの他分野との連携強化を進め、新規需要の開拓や消費者ニーズを踏まえた高収益作物の導入、高付加価値化、6次産業化などの取組を総合的に支援。
- 地産地消や食育、クリーン農業、GAPなどの取組を通じ、道民や消費者の地域農業への理解醸成を今後も推進。
- 食料消費の変化に適切に対応するとともに、地域農産物の魅力発信を推進。
- 食と観光が連携した農業体験等を推進し、都市と農村の交流を拡大。

1 地域農業・農村の「めざす姿」

将来の担い手に選ばれる 輝く上川の農業・農村

- 多様な担い手と人材が地域農業を安定的に支え、魅力的な産業として、農業が地域の他産業とともに発展しています。
- 多様な農産物を生産する特色ある産地を確立し、高い生産性や収益性を実現している活気溢れる地域になっています。
- 地域ぐるみで多くの来訪者と交流し、地域住民が次世代につなげたい宝として上川の農業・農村を誇りに思っています。

2 「めざす姿」の実現に向けた主な取組の方向

(1) 担い手と雇用人材の確保

- 行政機関の関係部署や農業団体等が連携し、多様な担い手の確保に努めるとともに、道内外の他地域やサービス・観光業などの他産業、福祉事業所などとの協働、外国人材の受入といった雇用人材確保に向けた取組を推進します。
- 就農トライアルツアーなど、市町村等と連携した担い手確保の取組や、農業高校生向けの出前授業や先進農家の視察などを行うとともに、新規就農者・研修生の経営力向上のための研修会などを実施します。



【高校生を対象に実施した研修会】

(2) 高収益化の推進

- 大区画化などの基盤整備の計画的な推進とともに、RTK-GNSSを活用した農業機械や施設園芸における環境制御設備などの新技術の導入を支援するとともに、共同育苗などの作業の共同化や外部化の取組を推進します。
- 多様な担い手の経営展開方針に合わせて、観光と一体化した多角的な農業経営や、新たな需要を切り拓く新規作物の導入、農産物の価値を更に高める6次産業化の取組を推進します。



【区画整理（左：実施前 右：実施後）】



【高密度播種中苗による移植】

(3) 豊かで魅力ある農村の確立

- フードツーリズムや体験・滞在型観光などの推進に係るプロジェクトと連携し、上川地域ならではの魅力を発信するとともに、幅広い世代に対する食農教育を推進します。
- 指導農業士・農業士会や農業法人ネットワークの研修会などを通して、移住者等を含めた地域内の交流促進に向けた機運を醸成します。
- 観光業をはじめ、農業関係者以外にも巻き込んだ多様な受入主体による農村ツーリズムの取組を推進します。



【まちおこしの資源となっているめん羊や新たな特産品を目指すスキニア】



【農村ツーリズムの様子】

3 これまでの取組状況等

(1) 担い手と雇用人材の確保

- 上川農福連携推進地域連絡会議を設立。農福連携セミナーを開催。【R3～R5】
- 就労継続支援事業所職員向けの現地作業体験会や意見交換会を開催。【R4～R5】
- 新規就農者の確保に向け受入側の体制整備や就農トライアルツアーを開催。【R3：剣淵町、R4：中川町】
- 上川管内農業担い手育成協議会と連携し、新規就農者等を対象に「上川新農経塾」を開催。【R3～R5】
- 管内農業高校生等の生徒を対象に出前事業（農業施設の視察等）を実施。【R3～R5】
- 退職自衛官向けの農業インターンシップを開催。【R4～R5】
- 上川管内農業法人ネットワークによる経営能力向上等研修会等を開催。【R3～R5】



【自衛官向けインターンシップ】

(2) 高収益化の推進

- 基盤整備の計画的な推進を図るとともに、地域における自動操舵装置やハウス自動換気装置等の導入を支援。【R3】
- 水田地域における計画的な基盤整備と省力化を推進するため、ホクレン、試験場等関係者、局内関係課による情報交換会【R3】、研修会等イベントの実施。【R4】
- 麦や大豆の生産性向上に向けた取組やコントラ組織の機械整備等を支援。【R4】
- 農山漁村振興交付金を活用し、自動給水栓・ハウスモニタリング・ハウス自動制御機器の試行調査を実施。モデル地域の整備計画策定。【R5、R6】
- 集中管理孔及び自動給水栓の実施地区の導入事例現地研修の実施。【R5】
- 地域の課題に応じて、生産性向上・高品質化等総合的に推進。【R3～R5】
- 冬期の無加温ハウスにおける野菜生産の振興に向けた、事例調査や実需者等と意見交換会【R3】、技術セミナーやほ場視察等、消費者の冬野菜への普及啓発イベント【R4】、農業者向け導入セミナー、小ロット配送事業者の販売実証や、普及啓発イベント。【R5】
- 6次産業化研修会を開催し、6次産業化の実践農家等のステップアップ・販路拡大を推進。【R3～R5】



【集中管理孔活用研修会】

(3) 豊かで魅力ある農村の確立

- お米をテーマとした食育セミナーを開催し、旭川農業高校の取組等の紹介や、食育に取り組む農業者による講演を行い、上川農業への理解促進を図った。【R3】
- 児童を対象としたお米の脱穀体験を開催し、食農教育を推進【R4】、や「味噌玉」づくり体験を開催し、上川における大豆生産など地産地消や食農教育を推進。【R5】
- かみかわ有機農業ネットワークによる朝市を開催し、農業者と消費者の交流を図るとともに、消費者の有機農業への理解を促進【R3～R4】や、地産地消収穫祭を開催し、農業者と消費者の交流、消費者の有機農業への理解を促進。【R5】
- 管内で農泊に取り組む組織に対して、北海道農泊推進ネットワーク会議への参加を呼びかけるとともに、相談窓口において情報提供等を行い、地域の取組の磨き上げを支援。【R3～R5】



【味噌玉づくり体験】

4 取組の成果や課題

(1) 取組の成果

- 関係機関との連携強化により、多角的な担い手確保の取組が実施できた。
- 生産性の向上や6次産業化等の取組に対する機運の醸成が図られたほか、冬期無加温ハウスでの野菜生産導入に向けた事業者や関係機関等との連携体制が構築された。
- 食農教育イベントの実施により、参加児童に対し上川農業の理解醸成を図ることができた。

(2) 課題

- 新規就農者や農業雇用人材の確保、農福連携の普及を図るためには、継続的な取組の実施が必要。
- 高収益化の推進を図るためには、地域での現地実証に基づく普及啓発や、実践事例を踏まえた提案など、分かりやすく説得力のある推進活動が必要。
- 農村ツーリズムや食農教育の機運を高めるためには、継続的な取組の実施が必要。

5 今後の展開方針

(1) 担い手と雇用人材の確保

- 担い手と雇用人材の確保に向けて、引き続き関係機関と連携し、多角的な取組を推進。

(2) 高収益化の推進

- 農業農村整備事業の有効性等を関係団体と協力し、農家への研修会、受益者説明会等を実施。
- 農作物の生産性向上・高品質化や低コスト・省力化などの取組を総合的に推進するとともに、各種イベント等を通じ、生産物の高付加価値化を推進。

(3) 豊かで魅力ある農村の確立

- 各種イベント等を活用し、農村ツーリズム及び食農教育の取組を推進。

1 地域農業・農村の「めざす姿」

夢と希望に満ちた「バラエティ豊かな」留萌農業

- 若い担い手が夢と希望を持って活躍し、家族経営を主体に多様な担い手・人材が支え合い、バラエティ豊かな農業を展開しています。
- 多様な農産物が、農業生産基盤の強化により安定的に生産され、省力的で生産性が高い儲かる農業を実現しています。
- 留萌ならではの豊かな食材や恵まれた自然、景観など地域資源を活かした活力と魅力あふれる農業・農村が形成されています。

2 「めざす姿」の実現に向けた主な取組の方向

(1) 留萌農業を支える多様な担い手・人材の育成・確保

- Uターン就農や新規参入希望者に向けた情報発信、円滑な就農に向けた地域関係者が連携した受入体制の整備、「るもい農業基礎ゼミナール」による農業知識・技術早期習得の取組などを推進します。
- 青年農業者組織の活性化に向けた支援や、女性農業者が活躍できる環境づくりを推進します。
- 農業法人の課題解決や経営発展に向けたセミナーの開催、家族経営体を支えるTMRセンターなど営農支援組織の育成・体質強化の取組を推進します。
- 遠別農業高校生を対象に出前講座を行い、留萌農業への理解促進と就農意欲を喚起する取組を推進します。
- 安定的に雇用人材を確保できる仕組みづくりや、農福連携、地域における外国人材の受入環境整備に向けた取組などを推進します。



(るもい農業基礎ゼミナール)

(2) 収益性の高い魅力ある留萌農業の確立

- 基幹作物である水稻の基本技術の励行による収量・品質の向上や、直播栽培など低コスト・省力化栽培技術の導入を推進します。
- 畑作物のほ場の透排水性改善による収量・品質の向上や、野菜、果樹、花きの栽培技術向上に向けた取組を推進します。
- 計画的な草地更新による植生改善や乳質向上に向けた取組、和牛産地の生産基盤強化に向けた取組を推進します。
- 高品質で安全・安心な農産物の生産に向けた取組、自動操舵システムや搾乳ロボットなどスマート農業技術の導入支援、農地の集積・集約化、水田の大区画化や草地整備など計画的な農業生産基盤整備を推進します。



(直進アシスト機能付き田植機)

(3) 活力と魅力あふれる農業・農村づくり

- 農産物の加工、直売など6次産業化の取組や、関連産業との連携による高付加価値化の取組を推進します。
- 留萌の豊かな地域資源を活かした農業体験や教育旅行の受入れなど、都市と農村との交流を推進します。
- 地場農産物の消費・販路拡大を図り、地元愛を高める地産地消を推進するとともに、留萌農業の情報や魅力を幅広く発信します。



(教育旅行による農業体験)

3 これまでの取組状況等

(1) 留萌農業を支える多様な担い手・人材の育成・確保

- ① るもい農業基礎ゼミナールを開講【R3~R5】
- ② 留萌4Hクラブ連絡協議会の運営支援【R3~R5】、ファーマーズトーク in RUMOIを開催【R3~R5】、若手女性農業者の農業基礎習得のための研修会の開催。【R4~R5】
- ③ 留萌管内農業法人情報交換会、留萌管内TMRセンター情報交換会を開催。【R3~R5】
- ④ 管内への就農意欲の喚起を目的として、るもい指導農業士・農業士会と連携し、遠別農業高校生を対象に、現地視察研修（農家見学バスツアー）を開催。【R4~R5】
- ⑤ 農福連携や外国人技能実習生の受入事業者（法人）の現地視察・事例調査を実施。【R5】



【るもい農業基礎ゼミナール】



【農業高校生の農家見学ツアー】



【水稲直播栽培の状況】



【農業・農村基盤整備事業の状況】

(2) 収益性の高い魅力ある留萌農業の確立

- ① 水稲の初期生育の向上を目的とする育苗講習会の開催や、適正施肥などの基本技術の実施、省力技術である水稲湛水直播の栽培管理技術向上の支援を実施。【R3~R5】
- ② 畑作物の単収向上に向けたカットドレーンによる透排水性改善技術の実証・効果検証、技術の普及啓蒙のほか、ハウス栽培の環境制御システムの技術支援。【R3~R5】
- ③ 強害雑草に対応した草地更新支援・講習会の開催【R4~R5】、適切なミルカー洗浄実施確認のための排水温確認の啓蒙【R5】、小平町和牛生産改良組合への技術支援。【R5】
- ④ 遠別農業高校のASIAGAP取得の支援【R3~R5】、女性農業者や指導農業士・農業士、水稲農家等を対象に、スマート農業研修会を開催【R4~5】、基盤整備を実施。【R3~R5】

(3) 活力と魅力あふれる農業・農村づくり

- ① 色素用紫さつまいもの寒冷地での安定生産に向けた技術確立と加工残さ活用を含めた活用支援【R3~R5】、6次化ニーズの把握とマッチング支援、取組の高度化支援。【R5】
- ② 都市と農村の交流や教育旅行受入推進に向けたセミナーを開催。【R3、R5】
- ③ 管内産米のPRイベント、親子料理教室を開催【R3~R4】、るもいフラワーデイズを通じて、るもい産花きの振興を実施【R3~R5】、首都圏にて「るもいフェア」を開催。【R4~R5】

4 取組の成果や課題

(1) 取組の成果

- 「農業基礎ゼミナール」や「ファーマーズトーク in RUMOI」などの取組により、新規就農者の育成や農業者同士の交流機会の創出を、「農家見学バスツアー」や「雇用人材確保の先進地調査」などの取組により、現状に即した新規就農対策・労働力対策を進めることができた。
- 「育苗講習会」や「カットドレーンの普及啓蒙」、「ドローンを活用した水稲直播の実証」、「草地更新の講習会」、「スマート農業勉強会」「遠別農業高校に向けた ASIAGAP 取得支援」「水田の大区画化等の基盤整備」等を通じて、バラエティ豊かな留萌農業に適した取組を進めることができた。
- 「色素用紫さつまいもの寒冷地での安定生産に向けた技術確立」による高付加価値化や、「教育旅行推進セミナー」による農村の活性化、「るもいフラワーデイズ」や「北海道花の日キャンペーン in るもい」による花き振興、首都圏での「るもいフェア」による販路拡大などの取組を通じて、地域の活力・魅力を多角的に向上させることができた。

(2) 課題

- コロナ禍により地域で継続されてきた取組の喪失や農業者間のつながり脆弱化に対応した対策が求められているとともに、変容する高校生や若年層の就農意識・価値観に即した取組が求められる。
- 高齢化による労働力不足に加え、水活交付金の見直しや輸入資材価格の高騰など、新たな課題への対応も含めた取組が求められている。
- コロナ禍の影響により、地域の取組意欲の減退や消費者の行動様態の変容が生じており、現状に即した取組が求められている。

5 今後の展開方針

(1) 留萌農業を支える多様な担い手・人材の育成・確保

- ① 「るもい農業基礎ゼミナール」を継続して開催。
- ② 「留萌4Hクラブ連絡協議会」、「ファーマーズトーク in RUMOI」「若手女性研修会」の継続開催。
- ③ 地域の法人の連携確立に向けた支援や、TMRセンターの利用拡大と効率化への支援、研修会等の取組。
- ④ 「農家見学バスツアー」について、高校生のニーズに即した内容を選定し、高校と共に開催を継続。
- ⑤ 雇用人材確保について、関係機関等とともに先進的事例の共有と地域性等を考慮した取組を継続。

(2) 収益性の高い魅力ある留萌農業の確立

- ① 育苗講習会や土壌診断に基づく施肥設計等の取組を通じた、水稲栽培技術向上に向けた支援。
- ② カットドレーンの普及啓蒙などの取組を通じた、畑作物の栽培技術向上に向けた支援。
- ③ 草地更新の講習会開催等の取組を通じた、畜産の生産基盤強化への支援。
- ④ 農業高校のGAP事例の支援や、スマート農業の推進、農業生産基盤整備の実施。

(3) 活力と魅力あふれる農業・農村づくり

- ① 農産物の高付加価値化志向者や、6次産業化希望者に対し、関係団体や関連事業者との連携を支援。
- ② 農業体験や教育旅行受入に関心のある農林漁業者と実践団体等との橋渡し等を推進。
- ③ バラエティ豊かな管内産農畜産物をフルに活用するため、地産地消や販路拡大等のイベントを実施。

1 地域農業・農村の「めざす姿」

“最北”の強みを活かし、未来を担う人材が活躍する宗谷酪農

- 小規模でも低コストで経営効率が高い経営や、大型化により生産効率を高めた経営など、多様な経営体が、宗谷の強みである冷涼な気候と広大な牧草地を最大限活用した、生産性の高い酪農を展開しています。
- 活力ある地域コミュニティと、働きやすく、住みやすい環境の中で、地域の未来を担う人材が活躍しています。

2 「めざす姿」の実現に向けた主な取組の方向

(1) 多様な経営体の生産性向上をめざす

- 草地整備事業や畜産クラスター事業、畜産ICT事業などの補助事業を有効的に活用し、それぞれの経営方針に適した草地整備や牛舎等の施設整備、機械導入を推進します。
- 草地の生産性向上に向けた追播などによる草地更新の促進や、酪農試験場天北支場と連携した草地の植生改善、乳牛の能力を最大限に発揮できる飼養環境の改善などに取り組みます。
- コントラクターやTMRセンター、公共牧場など、地域の営農支援組織の充実を図り、飼料生産や哺育・育成の外部的・効率化を進めます。

[多様な経営体による生乳生産]

管内の農業経営体は家族経営が主体となっていますが、小・中規模であっても、良質な自給飼料の生産や、乳牛改良による高能力な牛づくりなどで高い生産性・収益性を実現している経営体もあれば、地域の核となる農業法人が、大規模施設を整備し地域の生乳生産を担うとともに、牧草収穫などの飼料生産を受託し周辺農家の生産を支えている経営体もあるなど、管内の生乳生産は多様な経営体によって支えられています。



畜産クラスター事業を活用して整備された牛舎

(2) 地域と未来を担う人材が活躍する酪農地域をめざす

- 新規就農者を確保・育成するため、大学などでの就農セミナーの実施や、就農イベントなどへの出展・参画を行うとともに、酪農経営における知識や技術力を高める指導や研修を実施します。
- 農泊や農家レストランなど、農村地域の様々な魅力を伝える取組を推進するとともに、新たな人と経済の流れにつながる都市と農村の交流活動を促進します。
- 働きやすく活気があり、住みやすい酪農地域となるように、研修機会などを通じた農業者間の交流促進を図り、地域のコミュニティ機能を高めます。

[地域の担い手が酪農を学び交流を深める]

酪農の担い手を育成するため、管内在住の新規就農者や若手農業者を対象に、酪農の基礎知識や技術を学ぶ「SOYAルーキーズカレッジ」を毎年開催し、技術力の向上と交流の輪を広げています。



SOYA ルーキーズカレッジの開催風景

3 これまでの取組状況等

(1) 多様な経営体の生産性向上をめざす

- 補助事業を活用した草地整備や施設整備等
 - ・草地畜産基盤整備事業により草地整備を実施。草地の不陸や排水不良が改善され粗飼料の品質・生産性が向上。畜産クラスター事業により牛舎の建築や搾乳ロボットを導入し生乳生産量の維持・拡大を実施。【R3】
 - ・草地整備による草地の不陸や排水不良の改善を図り、粗飼料の品質・生産性の向上を推進。【R4～R5】
 - ・新規参入者の受入に向けた牛舎等の補改修、機械導入を推進【R4～R5】
 - ・草地の利用に必要な施設・機械を整備。【R5】
 - ・地域の飼料供給体制の効率化を図るため、TMRセンターを整備【R5】
- 地域の営農支援組織の充実
 - ・中頓別町、枝幸町及び猿払村の公共牧場整備（育成舎、堆肥舎、バンカーサイロ）【R3】
 - ・哺育・育成の外部化・効率化のため、搾乳に専念できる体制を構築し、生産性の高い酪農経営を確立【R3】や、補助事業を活用した公共牧場の哺育・育成施設等の規模拡大【R4】をし進め、農作業の分業化を促進。
 - ・農業経営体の労働力を補完するTMRセンターなどの営農支援組織の活動支援。【R4】



【酪農家の飼養管理の省力化牛舎】

(2) 地域と未来を担う人材が活躍する酪農地域をめざす

- 新規就農者を確保・育成
 - ・道内外の大学生や地元高校生を対象に、動画を活用した「宗谷酪農セミナー」や「高校出前授業」を実施し、多様な人材の確保及び都市・農村の交流促進に向けて、地域や農業の魅力をもPR。【R3～R5】
 - ・新規就農者や雇用就農者、酪農ヘルパー等を対象とした研修会「SOYALルーキーズ☆カレッジ」を開催し、次代の農業を担う多様な人材の育成を図るとともに、先輩農業者との懇談の場を設け、地域交流の促進や相談しやすい環境づくりを実施。【R3～R5】
- コミュニティ機能を高めるチーズセミナー
 - ・酪農地帯・宗谷らしい新たな食文化の創出に向けて、管内の農業体験交流施設において、地元産の生乳を使ったチーズづくり研修会の実施。【R3】
 - ・参加した管内の農業者は、チーズづくりを通じた交流会や意見交換会の実施。【R3】
- 都市・農村交流の促進と地域コミュニティ機能の強化
 - ・乳製品加工体験会の開催などによる、宗谷の酪農・農村及び牛乳乳製品の魅力発信と交流の場づくりを推進。【R4～R5】



【宗谷酪農セミナー】



【チーズづくり体験】

4 取組の成果や課題

(1) 取組の成果

- 草地整備事業による生産性の向上、新規就農者の確保による生産基盤の安定化。
- 管外の農業系大学生へのPRにより、酪農体験実習で来宗するなどの宗谷酪農の認知度向上。

(2) 課題

- 毎年新規就農者を確保しているが、離農者数が上回っており、農家戸数が年々減少。
- 離農者の増に伴い、戸当たり経営耕地面積が増加しており、農地の管理が限界を迎えつつある。

5 今後の展開方針

(1) 多様な経営体の生産性向上をめざす

- 引き続き、草地畜産基盤整備事業や畜産クラスター事業を活用し、「生乳生産基盤の維持・拡大」や、新規就農者への牛舎等の補修や機械導入を推進。
- 良質な自給粗飼料の生産・利用拡大のため、TMRセンターなどの営農支援組織への支援強化。

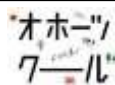
(2) 地域と未来を担う人材が活躍する酪農地域をめざす

- 農業の担い手や宗谷酪農を支える人材を確保していくため、市町村や地域の関係機関との連携を密にし、進路選択期の学生に対して、就農や関連職業の紹介、就農間もない農業者等への研修など人材確保に一層取り組む。
- 乳製品加工体験を通じて、酪農・農村の魅力を発信するとともに、講師となる農業者同士の交流によりコミュニティ機能を強化。

オホーツク地域

1 地域農業・農村の「めざす姿」

オホーツクの広大な大地で“クール”に農業



※クール：かっこいい、素晴らしい、素敵な

- スマート農業技術を駆使した、大規模で生産性が高く、労働負担の少ない農業生産体系が確立し、持続可能で先進的な農業が展開されています。
- コントラクター・TMRセンターなどの営農支援組織や協業型法人経営が、経営体や地域を支える高度な支援システムが確立しています。
- 新規参入者を含めた意欲の高い担い手、雇用従事者、障がい者、外国人材など多様な人材が生き生きと活躍できる環境が整備されています。
- 農業と他産業が高度に結び付いた、オホーツクの魅力ある食関連産業が確立し、地域経済を牽引するとともに、道内外の都市住民など消費者を惹きつけるオホーツクブランドが定着しています。

2 「めざす姿」の実現に向けた主な取組の方向

■ 基本的な考え方

- 【畑作】
 - ・ 省力化に加え、収量や品質の向上、コスト低減に繋がるスマート農業技術、コントラクターを活用した効率的かつ収益性の高い大規模畑作農業の展開
 - ・ 畑作3品に加えて豆類等の作付拡大による適正な輪作体系の確立
 - ・ ジャガイモシストセンチュウ類対策などの確立
- 【畜産】
 - ・ 家族経営を中心とした収益性の高い畜産経営の展開
 - ・ コントラクターやTMRセンター、哺育育成センター等の営農支援組織の育成強化による労働負担の軽減
 - ・ 搾乳ロボットや発情発見装置などスマート農業技術の活用による省力化

(1) 持続可能で先進的な農業の展開

- 秋まき小麦、てん菜、馬鈴しょに加え、第4の作物として豆類の振興など適正な輪作体系の確立に取り組みます。
- ジャガイモシストセンチュウ類やコムギなまぐさ黒穂病などの早期発見・まん延防止対策などに管内関係者が一体となって取り組みます。
- 省力化に加え、収量や品質等の向上、コスト低減に繋がるスマート農業技術など先進技術の幅広で効果的な導入を進めます。
- 農作物の収量や品質、農作業効率の向上など農業生産を支える農業生産基盤の整備に計画的に取り組みます。

(2) 経営体を支えるシステムの推進

- 家族経営など経営体を支える営農支援組織の育成強化などに取り組みます。

(3) オホーツクでの新規就農者や農業従事希望者など多様な人材の確保・定着

- オホーツク管内が一体となった新規就農等のPRの実施や、受入体制の構築により、新規参入希望者の受入から就農までの支援を一体的に取り組みます。
- 農業系大学や高校と連携して学生の農業への理解の促進とともに、就農や農業関連産業への就業意欲の向上に取り組みます。
- 農業生産や選果場など関連施設を支える多様な人材の確保・定着に取り組みます。

(4) オホーツク農業のブランド力向上

- オホーツクの高品質で安全・安心な地場農産物の付加価値向上を図り、オホーツク農業の魅力の発信と、ブランド力の向上に取り組みます。

3 これまでの取組状況等

(1) 持続可能で先進的な農業の展開

- 豆類の新規作付・生産拡大に向け各種事業活用等による機械導入。農業団体や各産地が実施するジャガイモシストセンチュウ類対策の取組に対して助言などを支援。【R3～R5】
- 農業団体や各産地が実施するセンチュウ対策の取組に対して助言などを支援。
- 事業を活用したスマート農業機器の導入支援【R3～R5】や農業セミナーの開催、農業者への技術普及を実施。【R3～R5】
- 搾乳ロボット・自動給餌機・哺乳ロボットなどの省力化、飼養管理技術の高度化や機械導入支援、ほ場の区画整理、用排水路整備など基盤整備を実施。【R3～R5】



【スマート農業セミナー】

(2) 経営体を支えるシステムの推進

- 事業を活用しコントラクターや利用組合の機械導入支援、TMRセンターの施設増設や哺育育成センターを整備。【R3～R4】
- 認定農業者等に対して農業用機械・施設の導入の支援を実施。【R3～R5】



【農村基盤整備事業による区画整理工事の実施】

(3) オホーツクでの新規就農者や農業従事希望者など多様な人材の確保・定着

- 後継者のいない農業経営者等に対し、第三者継承を提案するセミナーを開催。【R3】
- オホーツク地域就農者対策会議で新規就農対策、雇用管理研修会等を実施。【R3～R4】
- 美幌高校、大空高校での出前授業や東京農業大学生向けの就農セミナー、「退職予定自衛官の農業分野における職場体験会」を開催。【R3～R5】
- 大都市圏で開催される「就農フェア」等に出展。【R3～R5】



【畑地暗きょ工事の実施】

(4) オホーツク農業のブランド力向上

- 「オホーツクスイーツ&ミルクスタンプラリー」を実施や管内産農畜産物消費拡大・PRのため「豆キュン♡プロジェクト」、「ビーンズセミナー」を開催。【R3～R5】
- 農業改良普及センターが中心となり、管内農業者向けに「オホーツク管内高付加価値化研修会」を開催。【R3～R5】



【高校生への出前授業】

4 取組の成果や課題

(1) 取組の成果

- 大豆の作付面積が拡大。ジャガイモシストセンチュウ類対策として、令和4年に澱原用馬鈴しょは全面抵抗性品種に切り変わった。
- 事業を活用したトラクターの自動操舵システムの導入の進展や搾乳ロボットの導入農家が増加し、労働力不足解消に一定の成果があった。
- TMRセンター19組織、哺育育成センター14組織が稼働。新たな組織の設立等が進んだ。
- 新規就農等のPR後の問い合わせなど、就農に向けた研修に繋がっていることや、就農セミナーや出前授業では、興味や就農意欲を持ち、新規就農や農業関係の仕事に就職。
- 退職予定自衛官インターシップは農業分野を再就職先として選択のきっかけとなった。
- スタンプラリーでは道外参加者の増加や「豆キュン♡プロジェクト」を通じ、開発された商品が通年販売化など、管内産豆の利用促進が図られた。



【スタンプラリーポスター】

(2) 課題

- 大豆の安定生産に係る技術的な指導、食用・加工用馬鈴しょの抵抗性品種の作付拡大。
- スマート農業技術の活用方法に係る技術の確立。
- 営農支援組織の既存施設等の老朽化に伴う施設・機械の維持管理や運営等への影響。
- 農家子弟の農業後継者確保や第三者継承を行う新規参入者や雇用労働者の確保。
- 新規就農希望者の希望に応じるため、多様な就農形態(小規模経営・半農半X等)の提案。
- 管内の農業・農畜産物に対する消費者等の一層の認知度向上と利用の拡大。



【豆キュン♡プロジェクト】



【高付加価値化研修会】

5 今後の展開方針

(1) 持続可能で先進的な農業の展開

- 適正な輪作体系の確立に向け、モデル実証ほ場における試験・検討や農産物の安定生産を図るための農業用機械の導入に向け各種事業計画の作成を支援。
- ジャガイモシストセンチュウ類対策の取組に対して助言などを実施。
- スマート農業セミナーの開催やスマート機械機器の導入を支援。

(2) 経営体を支えるシステムの推進

- 家族経営など経営体を支える営農支援組織の育成強化に向け、農業用機械等の導入に向けた支援。
- 「オホーツクTMRセンター連絡会」を通じ関係団体と連携し地域の組織活動を支援。

(3) オホーツクでの新規就農者や農業従事希望者など多様な人材の確保・定着

- 管内市町村やJAと連携し、各地域の情報共有を行いながら、オホーツク全体として、新規就農希望者に向けたPRを継続。就農セミナーや農作業体験会を実施し、新規就農等に繋げていく。

(4) オホーツク農業のブランド力向上

- オホーツク農業の認知度向上、農畜産物の付加価値向上に係る消費者向けのPR、実需者における利用拡大とともに、スタンプラリーや食育セミナーを通じ農業・農畜産物の理解醸成・地産地消をさらに推進し生産者、消費者、実需者の結びつきを強化した新たな連携に繋げる取組を展開する。

1 地域農業・農村の「めざす姿」

日本の食料生産を支え、地域を豊かにする農業王国十勝

- 農業が「あこがれの職業」となり、家族経営をはじめとした担い手や、地域農業を支える多様な人材がいきいきと活躍しています。
- 恵まれた大地を活かし、高品質な食料を安定的に生産・供給する拠点が形成されています。
- 安全・安心な食を提供する「十勝」ブランドが、国内外で認められ続けています。
- 常に環境変化に対応した新しい技術の導入に挑戦し、先進的で高度な技術のもと農業が次世代の先進産業として環境と調和しながら発展をしています。

2 「めざす姿」の実現に向けた主な取組の方向

| めざす姿 | | 取組の方向性 | |
|--|-----------------------|---|---|
| 日本の食料生産を支え、地域を豊かにする農業王国十勝 | 多様な人材が活躍する農業・農村 | 【多様な人材の活躍】 <ul style="list-style-type: none"> ○ 道立農業大学校など農業専門の教育機関と連携し就農・就業支援を進めるとともに、農業法人や関連産業、営農支援組織などの就業環境を整備し魅力ある就職先として「選ばれる農業」となるよう取組を推進するほか、自衛隊など異業種からの人材確保に向けた取組や農福連携などを促進し、農業・農村で多様な人材が持続的に活躍できる環境づくりを進めます。 |  <p>退職予定自衛官向け インターンシップ</p> |
| | 安定的な食料の生産・供給拠点の形成 | 【食の拠点確立】 <ul style="list-style-type: none"> ○ これまでに整備された近代的な生産施設に加え、ほ場の大区画化や暗渠排水、畑地かんがいなどの土地基盤整備の推進、貯蔵・流通体制の強化とともに、耕畜連携による土づくりや農業研究機関等と連携した生産技術の向上、安全・安心な食の提供などを通じて、日本の食料供給基地としての安定的な生産・供給拠点の形成を進めます。 | |
| | ブランド力強化や海外を視野に入れた販路拡大 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 大規模な加工・貯蔵施設をはじめ、道内唯一の北米・EU向け食肉加工処理施設などを活かした輸出拡大や、産地一体となった6次産業化など付加価値向上の取組を進め、広大な自然を背景とした安全・安心な食を供給する「十勝」を世界に通用するブランドとする地域一丸となった取組を強化していきます。 | |
| | 新たな価値を生み出す科学技術等の活用 | 【次世代先進産業の構築】 <ul style="list-style-type: none"> ○ 生産性の高い土地基盤等を活かしたICTやロボットなどの先端技術の導入を促進するとともに、畜産経営の大規模化に対応したバイオマス利活用と耕種経営との連携強化を推進し、農業関係者が一体となって先端技術を活用した持続可能な生産活動を進めます。 |  <p>高校生スマート農業実践講座</p> |
| 推 進 体 制 | | | |
| <p>「十勝農業・農村施策推進会議」において「めざす姿」の周知や中間報告などを通じて地域からの意見を聴きながら計画を推進するとともに、課題解決に向けては「十勝地域農業技術支援会議」などと連携して取り組みます。</p> | | | |

3 これまでの取組状況等

(1) 多様な人材が活躍する農業・農村

- 指導農業士等を講師とした農業高校等での出前授業の実施。【R4～R5】
- 「あおぞらネット」の活動を通じた農村女性の交流の活性化を支援。【R3～R5】
- 退職予定自衛官向けインターンシップの開催。【R3～R5】
- 農福連携シンポジウムの開催【R3～R4】

(2) 安定的な食料の生産・供給拠点の形成

- 農業生産の高品質・高付加価値化や低コスト化の推進及び自給飼料生産拡大、循環型社会構築のために必要な施設整備等の支援。

(3) ブランド力強化や海外を視野に入れた販路拡大

- 最新の輸出関連情報を提供する輸出拡大ステップアップセミナーの開催。【R3～R4】
- とちちオーガニック振興会による有機農業現地研修会等の開催。【R4～R5】

(4) 新たな価値を生み出す科学技術等の活用

- バイオガスプラントから発生する消化液の畑作利用について、散布実証や実証結果の事例発表会及び「消化液の有効活用に係る検討会」を開催。【R3～R5】



【農業高校での出前授業】



【十勝農村女性の集い】



【自衛隊向けインターンシップ】



【農業経営セミナー】

4 取組の成果や課題

(1) 取組の成果

【多様な人材が活躍する農業・農村】

- 出前授業の実施による、農業の魅力の発信及び農業や農業に関係する仕事への理解促進。
- 農村女性それぞれが取り組むグループ活動や地域活性化の取組についての情報共有。
- インターンシップによる、農業関連の仕事を再就職先として考えるきっかけの提供。
- 農業関係者に農福連携についての理解促進。

【安定的な食料の生産・供給拠点の形成】

- 生産施設整備や土地基盤整備による安定的な食料生産・供給体制の増強。

【ブランド力強化や海外を視野に入れた販路拡大】

- 管内の輸出を考える事業者への、具体的な輸出スキームの提供。
- とちちオーガニック振興会の会員数の増加。

【新たな価値を生み出す科学技術等の活用】

- 消化液の課題を関係者と共有及び課題解決に向けた具体的な実証試験を実施。

(2) 課題

- 十勝管内の普通科高校等を対象とした出前授業の継続。
- 女性農業者のネットワーク強化や、青年農業者等が農業技術を導入するための情報共有。
- 即戦力となる人材への積極的なアプローチや農福連携の情報発信等による理解醸成。
- 生産施設整備や土地基盤整備のための予算の確保。
- 管内事業者のニーズに応じた輸出情報の提供。
- 有機農業の実践者の拡大。
- 消化液の効果の確認や活用方法についての情報発信。

5 今後の展開方針

(1) 多様な人材が活躍する農業・農村

- 普通科高校等を対象とした出前授業や農業現場において即戦力となる人材へのインターンシップ、障害者等の社会参画に繋がる会議等、多様な人材の農業参画に向けた取組を継続。
- 女性農業者等を対象に、次世代を担うリーダーを育成する取組を継続。

(2) 安定的な食料の生産・供給拠点の形成

- 安定的な食料の生産・供給に向け、施設整備や土地基盤整備を推進。

(3) ブランド力強化や海外を視野に入れた販路拡大

- 相手国の基準や海外ニーズに対応した施設及び体制整備への継続支援。
- 有機農業技術の習得や有機農業者間のネットワークの構築などへの継続支援。

(4) 新たな価値を生み出す科学技術等の活用

- 研究機関や関係機関・団体などと連携し、消化液の有効活用・普及促進及び地域の課題解決に向けた取組を継続。

1 地域農業・農村の「めざす姿」

我が国の酪農を牽引し続け、次世代が夢をもつことができる農業・農村



根釧地域では、平成27年2月に管内市町村長・農業協同組合長が「根釧酪農ビジョン(以下、ビジョン)」を策定し、農業団体と市町村、振興局などが連携し、ビジョンの将来像の実現に向けた取組を展開しています。「めざす姿」は、ビジョンの内容を基本に、近年の新たな動きや課題などを踏まえ、道として整理したもので、今後、関係団体と一体となって取組を推進していきます。

2 「めざす姿」の実現に向けた主な取組の方向

(1) 草地型(循環型)酪農の推進

- 草地の適正管理や草地整備改良事業の計画的な実施を推進します。
- 生涯生産性の向上に向けた乳牛などの遺伝的改良や疾病軽減対策を推進します。
- 家畜排せつ物を適切に処理し、有機質肥料として農地に還元し、適切な肥培管理や臭気の軽減を行うなど、環境や家畜にもやさしい農業経営を推進します。

(2) 農業農村を支える多様な担い手と人材の育成確保

- 意欲ある農業者の規模拡大、中小規模の家族経営の維持、企業による施設園芸・肉用牛等への参入など、ビジョンで掲げる多様な担い手の育成確保を推進します。
- 後継者の育成や配偶者の確保に取り組めます。また、女性・高齢者がより活躍できる環境を整備します。
- 搾乳ロボットや牛群管理システムなどのスマート農業技術の導入や営農支援組織の育成・強化により、低コストでゆとりある農業経営を確立します。
- 新規参入者の広域的な受入体制を整備し、地域での受入・定着の促進や円滑な第三者経営継承に向けた相談員の育成などの仕組みづくりを推進します。
- 外国人材を含めた雇用人材が安心して働き続けられる環境を整備します。
- 災害などの発生に備えた組織継続体制(BCP)の構築と営農支援体制を確立します。

(3) 高付加価値化の推進と新たな可能性の追求

- 6次産業化など地域の創意工夫を活かした取組や、野菜・果樹など高収益作物の導入を推進します。また、牛乳乳製品や肉用牛の加工品等による地域ブランド力の強化などを進めます。
- 受精卵移植などによる和牛生産拡大や育成・肥育の飼養管理技術の向上を図ります。
- 釧路港や高速・高規格道など地域インフラを活用し、各地域の農村景観や食を活かした。根釧地域の「食と観光」の魅力を発信します。

3 これまでの取組状況等

(1) 草地型（循環型）酪農の推進

- 道営草地整備事業及び公社営事業における施工時期の平準化を推進【R3～R5】
- 根室地域農業技術支援会議において、「草地改良時期の分散化（麦類同伴）」をプロジェクト課題に位置づけ、先行事例の収集や実証試験を令和2年度から実施継続しており、令和5年度はデータを検証するとともに、その成果を地域に指導・普及。【R3～R5】
 - ・播種2年目の1番草と2番草の合計乾物収量（平均）は10a当たり841kg確保し、既存草地の平年対比で14%増。
 - また、チモシーとシロクロバ割合は8～9割で推移し、植生は良好。



【草地整備事業】



【草地改良時期の分散化（麦類同伴）実証試験】

(2) 農業農村を支える多様な担い手と人材の育成確保

- 釧根両（総合）振興局では、市町村やJAが連携し、より多くの人材確保の機会を創出するため、「根釧独自就農フェア（東京都での現地開催、オンライン併用）」の開催。併せて関東圏の専門学校等への学校訪問を実施。【R3～R5】
- 釧路総合振興局では、「北海道『釧路』農業就業相談会」を東京都、大阪府で開催。農協等が参加し、牧場等への就職、新規就農や生活環境などについて相談対応を実施。【R3～R5】
- 根室振興局では、管内農業高校の学生を対象に就農意欲の向上を目的とした出前授業を開催し、管内の農業関係施設の視察研修や管内外の先進的な酪農家の視察等を実施。【R3～R4】



【農業就業相談会】

(3) 高付加価値化の推進と新たな可能性の追求《釧路総合振興局》

- 管内産牛乳・乳製品の魅力を広く発信するため、令和3年10月に「釧路デーリィ コンシェルジュ」を任命し、店頭やイベントで商品説明、パネル展等を実施。管内チーズ工房と飲食店が連携し、独自のメニューを提供する「チーズなフェアinくしろ」を開催。メニューの感想などの動画をインフルエンサーが配信、又、フェア参加店でスタンプラリーを行い抽選で管内産チーズ詰め合わせのプレゼントを実施。【R3～R5】



【チーズなフェアinくしろ】



【農業高校で出前授業】

4 取組の成果や課題

(1) 取組の成果

- 釧路・根室地域では自給飼料に立脚した草地型酪農を展開するため、道営・公社営等による草地整備改良事業を推進。
- 各市町村・JAにおいて、新規就農者確保のため大都市圏で開催される「新農業人フェア」等に出展し、PR活動を展開。
- 農業者、農業団体職員及び振興局職員が、釧路管内産の生乳を使用して製造された商品を消費者に向け、魅力を発信する取組を推進。



【農業人フェア】

(2) 課題

- 草地更新の施工時期の分散化では、同伴麦類の安定した定着とその収量確保が不可欠で、前植生の雑草対策、は種作業の精度向上がポイントとなる。
- 最近の厳しい酪農情勢の影響から新規相談数が減少しているため、就農フェアの開催方法を工夫しながら、今後とも新規就農者の確保に取り組む必要がある。
- 効果的に牛乳・乳製品の消費を推進できるように、様々な手法の検討が必要である。

5 今後の展開方針

(1) 草地型（循環型）酪農の推進

- 草地更新の施工時期の分散化では、同伴麦類の安定した定着とその収量確保が不可欠で、前植生の雑草対策、は種作業の精度向上や、前述のポイントを踏まえ、普及推進。

(2) 農業農村を支える多様な担い手と人材の育成確保

- 新規相談数が減少しているため、就農フェアの開催方法を工夫し、今後とも新規就農者の確保。
- 関係機関と連携し、より多くの人材確保の機会が創出できるようメニューや内容の充実を図り、管内の魅力発信、情報発信、人脈づくりなど、広く人材確保が出来るよう啓発・支援。

(3) 高付加価値化の推進と新たな可能性の追求

- 効果的に牛乳・乳製品の消費を推進できるように、様々な手法を検討や、管内チーズの需要を更に増やせるように、スタンプラリー等を活用し、効果的なフェアの運営方法を検討。

